

各学年の目標

* 各学年の目標のつながりを、見やすくまとめています。

目標(1) 造形(美術)への関心・意欲・態度

小学校 1・2年生	目標(1) 進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、	つくりだす喜びを味わうようにする。
小学校 3・4年生	目標(1) 進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、	つくりだす喜びを味わうようにする。
小学校 5・6年生	目標(1) 創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、	つくりだす喜びを味わうようにする。
中学校1年生	目標(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、	心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
中学校2・3年生	目標(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、	心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。



目標(2) 発想や構想の能力 創造的な技能

小学校 1・2年生	目標(2) 造形活動を楽しみ、	豊かな発想をするなどして、	体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。
小学校 3・4年生	目標(2) 材料などから豊かな発想をし、	手や体全体を十分に働かせ、	表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。
小学校 5・6年生	目標(2) 材料などの特徴をとらえ、	想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、	様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。
中学校1年生	目標(2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、	豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、	意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
中学校2・3年生	目標(2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独自の・総合的な見方や考え方を培い、	豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、	創造的に表現する能力を伸ばす。

目標(3) 鑑賞の能力

小学校 1・2年生	目標(3) 身の回りの作品などから、	面白さや楽しさを感じ取るようにする。	
小学校 3・4年生	目標(3) 身近にある作品などから、	よさや面白さを感じ取るようにする。	
小学校 5・6年生	目標(3) 親しみのある作品などから、	よさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にするようにする。	
中学校1年生	目標(3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、	美術文化に対する関心を高め、	よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
中学校2・3年生	目標(3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、	心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、	よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

*それぞれの題材の学習に生かせる既習事項はどのようなことか、それぞれの題材で学んだことがその後の学習でどのように生かせるのか、参考にしてください。

*それぞれの題材に対応する「6 小学校」、「7 中学校」のページが示してあります。

A 表現

小学校 1・2年生 造形遊び

内容 A 表現(1)

	材料を基に造形遊びをする活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。	小学校には、「造形遊び」があります。 今までありましたが、平成20年の改訂で 「造形遊び」という言葉が、はっきりと示さ れました。
イ	感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。	
ウ	並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。	

小学校 3・4年生 造形遊び

内容 A 表現(1)

	材料や場所などを基に造形遊びをする活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	身近な材料や場所などを基に発想してつくること。	「活動を通して」というこ とは、活動が目標のでは なく、資質や能力を育て ることが大切であるとい うことを押さえましょう。
イ	新しい形をつくとともに、その形から発想したりみんなで話し合っ て考えたりしながらつくること。	
ウ	前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、 切ってつないだり、形を変えたりするなどしてつくること。	

小学校 5・6年生 造形遊び

内容 A 表現(1)

	材料や場所などの特徴を基に造形遊びをする活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくること。	
イ	材料や場所などに進んでかわり合い、それらを基に構成したり周囲 の様子を考え合わせたりしながらつくること。	
ウ	前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生 かしてつくること。	

小学校 1・2年生 絵や立体・工作

内容 A 表現(2)

	感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。	
イ	好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら 表すこと。	
ウ	身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し 方を考えて表すこと。	

小学校 3・4年生 絵や立体・工作

内容 A 表現(2)

	感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて 表すこと。	
イ	表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、 計画を立てるなどして表すこと。	
ウ	表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うととも に、表し方を考えて表すこと。	

小学校 5・6年生 絵や立体・工作

内容 A 表現(2)

	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、 工作に表す活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表し たいことを見付けて表すこと。	
イ	形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考え ながら、表し方を構想して表すこと。	
ウ	表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うととも に、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。	

中学校1年生

内容 A 表現(1) **感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、** **発想や構想に関する次の事項を指導する。**

ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。

イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

(1)は、「感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」です。

中学校2・3年生

内容 A 表現(1) **感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、** **発想や構想に関する次の事項を指導する。**

ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと。

イ 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。

中学校1年生

内容 A 表現(2) **伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、** **発想や構想に関する次の事項を指導する。**

ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。

イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

(2)は、「目的や機能考えた発想や構想」です。

中学校2・3年生

内容 A 表現(2) **伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、** **発想や構想に関する次の事項を指導する。**

ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。

イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。

中学校1年生

内容 A 表現(3) **発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、** **技能に関する次の事項を指導する。**

ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。

イ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。

(3)は、「創造的な技能」です。(1)と(3)、(2)と(3)というように組み合わせて指導計画を立てる必要があります。

中学校2・3年生

内容 A 表現(3) **発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、** **技能に関する次の事項を指導する。**

ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。

イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。

*それぞれの題材の学習に生かせる既習事項はどのようなことか、それぞれの題材で学んだことがその後の学習でどのように生かせるのか、参考にしてください。

*それぞれの題材に対応する「6 小学校」、「7 中学校」のページが示してあります。

B 鑑賞

小学校 1・2年生

内容 B 鑑賞(1)

身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、

次の事項を指導する。

小学校のアは、鑑賞の能力の観点から整理されています。

ア

自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。

イ

感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。

小学校 3・4年生

内容 B 鑑賞(1)

身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、

次の事項を指導する。

小学校のイは、言語活動の観点から整理されています。

ア

自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。

イ

感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。

小学校 5・6年生

内容 B 鑑賞(1)

親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、

次の事項を指導する。

ア

自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。

イ

感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

中学校1年生

内容 B 鑑賞(1)

美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、

鑑賞に関する次の事項を指導する。

中学校第1学年の、言語活動の観点が見られています。

ア

造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。

イ

身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること。

中学校第2、3学年の言語活動の観点が見られています。

中学校2・3年生

内容 B 鑑賞(1)

美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、

鑑賞に関する次の事項を指導する。

平成20年の改訂で、我が国の美術についての学習が重視されました。

ア

造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

イ

美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。

ウ

日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

小学校 1・2年生	ア	自分の感覚や活動を通して、	形や色などをとらえること。
小学校 3・4年生	ア	自分の感覚や活動を通して、	形や色、組合せなどの感じをとらえること。
小学校 5・6年生	ア	自分の感覚や活動を通して、	形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
中学校 1年生	ア	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	中学校では、1年生と2・3年生では同じ〔共通事項〕が示されています。
中学校 2・3年生	ア	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	平成20年の改訂で新たに示された〔共通事項〕。アでは、形や色彩など部分的なこと、イでは、イメージといった全体的なことを示していることが分かります。アでは、木の目で見るとも例えられます。イでは、森の目で見るとも例えられます。〔共通事項〕は、指導を見つめ直していく視点を示しているといえます。
小学校 1・2年生	イ	形や色などを基に、	自分のイメージをもつこと。
小学校 3・4年生	イ	形や色などの感じを基に、	自分のイメージをもつこと。
小学校 5・6年生	イ	形や色などの造形的な特徴を基に、	自分のイメージをもつこと。
中学校 1年生	イ	形や色彩の特徴などを基に、	対象のイメージをとらえること。
中学校 2・3年生	イ	形や色彩の特徴などを基に、	対象のイメージをとらえること。

〔共通事項〕のみをとり出して指導したり評価したりするものではないのです。
〔共通事項〕によって、子どもの学びを具体的に想定した指導計画を作成したり、学びの過程を重視して指導や評価を行ったりすることが大切です。

材料や用具についての取扱い

小学校 1・2年生

◎クレヨン

◎パス

- カラーペン
- ラッシュンペン
- 版画インク

小学校 3・4年生

前学年までに経験した用具については、その使い方に慣れるようにするとともに、簡単な手入れをしたり、それらを大切にしたりする習慣が身に付くようにしましょう。

小学校 5・6年生

◎印は、指導要領解説に記載されているもの。
○印は、教科書に記載されているもの。
・印は、資料集などに多く記載されているもの。

幼稚園においての表現の経験も知っておきましょう。

刃物類においては、刃こぼれがないかを確認したり、材料の硬さが児童にとって適切であるように配慮しましょう。

◎土、粘土、紙

◎はさみ

◎のり

◎簡単な小刀類

◎木



◎水彩絵の具

紙、木などは質の違いなどによって一概に経験したとはいえません。どんな材質のものを経験しているかについても把握しましょう。

○めうち

- 化学接着剤
- 粘着テープ
- セロハンテープ

- カッターナイフ
- 段ボールカッター

平成20年の改訂で、中学年に「釘」「金づち」が加われました。教科書では、すでに取り上げられることが多く、追認した形です。

◎小刀

◎木切れ 板材 釘 使いやすいのこぎり 金づち

◎彫刻刀

- げんろう
- ペンチ
- 釘めき
- パール
- ドライバー
- きり
- 木工万カ
- クランプ
- 木工やすり

図工室や美術室の備品を整備しておきましょう。室内の環境面からも安全に十分配慮して、事故防止に努めましょう。

平成20年の改訂で、高学年に「針金」が加われました。教科書では、すでに取り上げられることが多く、追認した形です。

◎針金 糸のこぎり

- 電動糸のこぎり
- 手引き糸のこぎり

○固形接着剤

電動糸のこぎりやドリルなど電動機械の使用時には教師が付き、慎重な取扱いが必要です。

接着剤には、樹脂を高温で溶かして使うものや接着力の強いものがあるので、皮膚などについての危険性などを事前に児童が理解しておく必要があります。

◎スポンジ (版)

…例としてあげられている。(指導上の留意点)

◎焼成する経験

…児童が工夫して楽しめる活動にする。(指導上の留意点)

◎コンピュータ、カメラ、コピー機などの機器

…用具の中の一つとして扱うとともに、必要性を十分に検討して利用する。(指導上の留意点)

中学校 1年生

◎水彩絵の具、色鉛筆、ペン、パステル、ポスターカラー、色紙など

◎粘土、木、石、紙など

・アクリル絵の具

・ガラス棒

- デジタルカメラ
- スキャナー

・スケッチ

・平面構成

・光

・水墨画

・イラストレーション

・単色版画、多色版画、モノプリント、
コラグラフ、ドライポイント、
エッチング、リトグラフ、シルクスクリーン

・漫画

・写真、ビデオ

塗料類及び薬品類の使用に際しては、換気や保管・管理を確実にを行うとともに、薬品などにアレルギーをもつ生徒を事前に把握するなどの配慮が必要です。

・木

・紙

・石

・土

・金属

・プラスチック

- ・のみ
- ・ボール盤
- ・アクリルヒーター

◎石彫用具 (例)

・たがね いもづち

中学校 2・3年生

※事故防止のために用具や機械類を、日常から点検整備に心掛ける。また、刃物類をはじめとした材料・用具の正しい使い方や手入れや片付けの仕方などの安全指導を、授業の中で適切な機会を捉えて行う必要がある。